

1. 今年度の研究の概要

(1) 研究主題・副題

「喜びをもって学ぶ子」
～グループ活動を通して深まり、学び合う姿をめざして～

(2) 研究主題・副題設定の理由

本校では、「喜びをもって学ぶ子」を研究主題として、主体的に学習に取り組み、考えようとする児童の育成をめざして研究に取り組んできた。「喜びをもって学ぶ子」とは、「わかってよかった」「できるようになって楽しかった」と達成感を味わう児童の姿と「友達と共に考えることが楽しい」と感じる児童の姿であると捉えている。

昨年度、副題を「グループ活動を通して深まり、学び合う姿をめざして」とし、以下の2つの重点を手立てとした授業づくりに取り組んできた。

重点1 「主体的にグループ活動に取り組ませるための手立ての工夫」

重点2 「グループや個の考えを生かし、学びを深めるための手立ての工夫」

取組の成果として、重点1では、課題意識のもたせ方の工夫、話し合いの目的やゴールを明確にする工夫、話し合いの形態や取り入れるタイミングの工夫、重点2では、グループ活動後も学習意欲が持続する工夫、板書の工夫など、有効な手立てが明らかになってきた。一方で、話し合いの目的と児童の実態がずれた話し合いになってしまったり、グループ間で格差が生じたり、全体での話し合いが深まらないことがあるという課題が残った。

昨年度の成果・課題を踏まえ、今年度は、さらに学び合い学習の充実を図るため、状況や実態にあった効果的なグループ活動の学び合いに焦点を当て、研究を進めていく。

(3) 研究仮説

研究主題「喜びをもって学ぶ子」に迫るために、今年度は、以下のような仮説を立てて取り組んでいく。

仮説「グループ活動を入れることにより、全体での学び合いが充実する」

授業における学び合いは主に2つに分類される。1つはペアやグループによる少人数の学び合い。もう1つは、全体での学び合いである。児童には後者の全体の学び合いの場で自分の考えを伝え、友達の考えを聞いて考えを深めてほしい。一方で、昨年度の研究の成果により、前者の学び合いであるペアやグループ活動を入れることによって、話しやすくなるだけでなく、自分の考えが精選され、さらに学びが深まることが明らかになってきた。そこで、全体の学び合いをより充実させるために、グループ活動に焦点を当てた研究に引き続き取り組んでいく。

まず、昨年度グループ活動に取り組んだことにより、児童はグループでの話し合いに慣れ、しっかりと自分の考えを伝えることができるようになってきた。今年度は、話し合いシートを基本としながらも、目的に応じて話し合いの形態をさらに工夫することで、学び合いが深まると考える。

次に、めざすグループの姿を「主体的にかかわり合うグループ」とし、グループや全体での学び合いの充実をめざしていく。主体的とは、課題を解決するために必要感を感じ自分たちから話し合いを要求したり、自分の考えを広げたり、深めたりしながら聴き合い、伝え合う姿である。そして、「～が、わからない」「どこからそう考えたの」「もう一度言って」と質問や反応を交えながら互いに話し合う姿である。そのようなペアやグループの話し合いで変容した考えを児童相互が全体交流でかかわらせることで全体の学び合いが充実していくと考える。

(4) 研究の重点

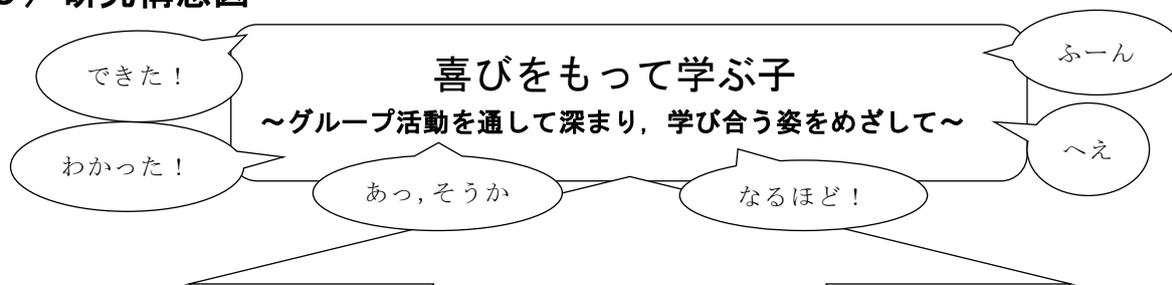
重点1 主体的にグループ活動に取り組ませるための手立ての工夫

- ・目的やゴールを明確にしたグループ活動の工夫
- ・主体的にグループ活動に取り組ませるための課題設定の工夫、発問の工夫
- ・状況に応じたグループの形態
(組織的なグループ、自由グループ)
- ・グループ活動を入れるタイミング
(自力解決後、全体の場合)

重点2 グループや個の考えを生かし、学びを深めるための手立て

- ・対話を通して学びを深めるための発問の工夫
教師の問い返しや深めの発問
- ・構造的な板書の工夫 (対立点が明確になるような板書など)
- ・個の考えを再構築する場の設定 (評価)
- ・グループ活動後も学習意欲が持続する工夫。
- ・相違点を出させ、比較したり対立させたりする工夫
- ・「本当にそうか」と考える批判的な思考や「でも・だって」と根拠を話したくなる工夫。

(5) 研究構想図



重点1 主体的にグループ活動に取り

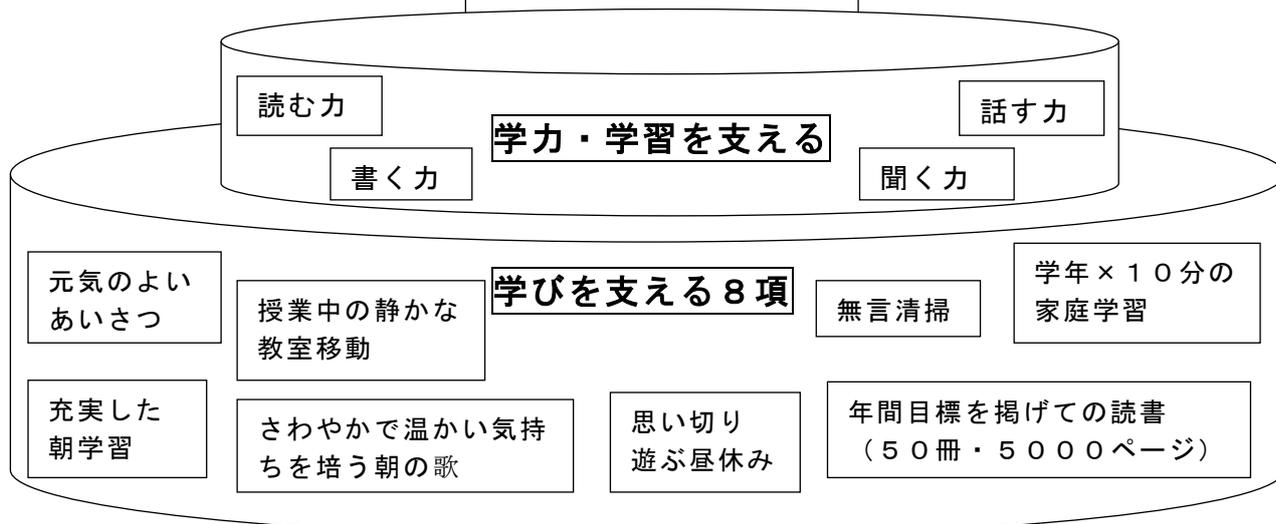
組ませるための手立ての工夫

- ・目的やゴールを明確にしたグループ活動の工夫
- ・主体的にグループ活動に取り組ませるための課題設定の工夫、発問の工夫
- ・状況に応じたグループの形態 (組織的なグループ、自由グループ)
- ・グループ活動を入れるタイミング (自力解決後、全体の場合)

重点2 グループや個の考えを生かし、学びを深

めるための手立ての工夫

- ・対話を通して学びを深めるための発問の工夫
教師の問い返しや深めの発問
- ・構造的な板書の工夫 (対立点が明確になるような板書など)
- ・個の考えを再構築する場の設定 (評価)
- ・グループ活動後も学習意欲が持続する工夫
- ・相違点を出させ、比較したり対立させたりする工夫
- ・「本当にそうか」と考える批判的な思考や「でも・だって」と根拠を話したくなる工夫



(6) 研究方法

- ・低中高学年ごとの発達段階に合わせた児童の実態（個人・グループ・全体）を把握し、その実態に合わせた具体的な手立てを考える。
- ・全学年，1学期に話し合いシートを活用し，話し合いの進め方を確認した後，いろいろな形態のグループ活動を経験させる。
- ・研究授業を通して，検証を行う。
- ・1人1回以上研究授業を行う。（全体研究授業3回，それ以外はブロック研究授業）
- ・研究授業の事前研・整理会は各ブロックを中心に行う。
- ・事前研では，指導案検討を行い，全員で授業づくりを考える。
- ・研究授業の単元は，各学年が共通実践する。
- ・事前研・整理会は主題及び重点にそった協議をし，児童の変容をもとに授業改善に努める
- ・研究通信を発行し，研究授業の様子や整理会での協議内容を報告し，共通理解を図る。
- ・相互に授業を参観し合い，授業力向上に努める。
- ・OJTを計画的に実施し，授業力向上をめざす。（外部講師を招聘した研修会も行う）

(7) 検証方法

- ・学力・学習状況調査
- ・学習アンケートによる児童の意識調査（7月，11月，2月）
- ・教師による児童の実態把握調査（7月，11月，2月）
- ・めざす児童の姿と児童の実態の分析（4月，7月，12月）
- ・発言や行動の観察
- ・児童のノート等の記述

(8) 学びを支える基盤づくり

(1) 学びを支える8項目

- 気持ちのよいあいさつ
- 充実した朝学習
- さわやかな朝の歌
- 授業中の静かな教室移動
- 学年×10分の家庭学習
- 無言清掃
- 年間目標50冊・5000ページの読書
- 思い切り遊ぶ昼休み

- ・書く力の育成として，毎週火曜日の朝学習において，ミニテーマ作文に取り組む。
- ・言語力育成のため，朝学習において，週1回朝読書の時間や月1回朝読書週間，読み聞かせの時間を設ける。また，月1回家庭読書の日を設ける。
- ・家庭学習の充実を図るために，各家庭に向けて「家庭学習の手引き」を発行し，時間や内容について家庭と連携しながら取り組む。

(2) 基礎学力調査の活用

基礎学力調査の結果を分析し，指導の重点を設けて授業に生かす。

(3) 学習月目標

学習規律の意識づけと定着に向けて，学習に関する約束をもとに毎月の学習目標を掲げ，全校共通した指導を行う。

(4) 児童の異学年授業参観

児童が異学年の授業を参観し、よりよい学びの姿を知る。

【学習目標年間計画】

月	学 習 目 標	備 考
4	ペル学をしよう (道具をきちんとそろえ、休み時間のうちに次の時間の準備をしよう)	筆記用具確認 10分休みは準備の時間
5		家庭学習がんばり週間
6	よい姿勢で、話す人の方を見て聞こう 自分の考えを伝えよう ていねいに書こう	
7		
9	学び合い言葉を使って話そう	
10	反応して聞こう	家庭学習がんばり週間
11	自分の考えをわかりやすく書こう	
12	書くときの姿勢に気をつけよう	
1	自分の思いや考えを、わかりやすく書こう	家庭学習がんばり週間
2	めあてをもって、家庭学習に取り組もう	
3	1年間をふり返ろう	クラス目標設定

(9) 研究組織

